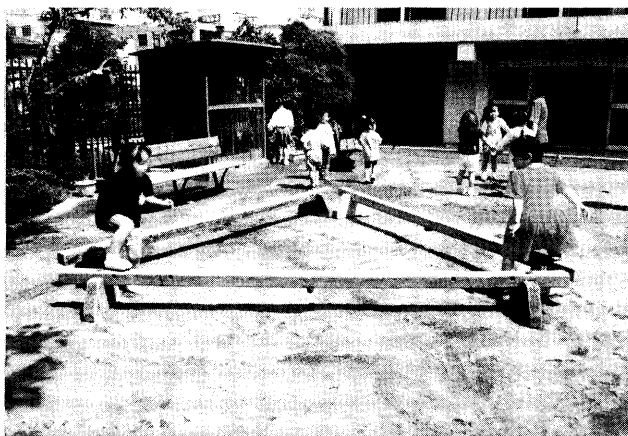


幼稚園の日々

小さな場所が子どもの力で変貌する

この小さな場所をめぐる、次々に展開する子どものイメージ、そして子どもの動き。三角形が回って行って、閉じた形となっただけで、回る動きが生まれる。子どもはまるで無限を楽しんでいるかのように回っていく。一所にいながら、切りのない動きとなる。角が一つ開けられて出入りできるようになると、そこでは中の空間が生きたものとなって、三輪車を置く場と変わり、外に出てはまた戻ってくる。再び閉じて、中には怪物が閉じこめられる。板を地面につないでいけば、それは危うく渡っていく通路と化す。わずか2時間ほどの出来事だ。それが幼稚園の1日となる。



◀ いつも三台平行に置いてあるのだが、今日は三角形に並べられていた。そのため、渡りきってしまえばおしまいのはずの平均台が、今回はエンドレスで、ぐるぐる出来る。

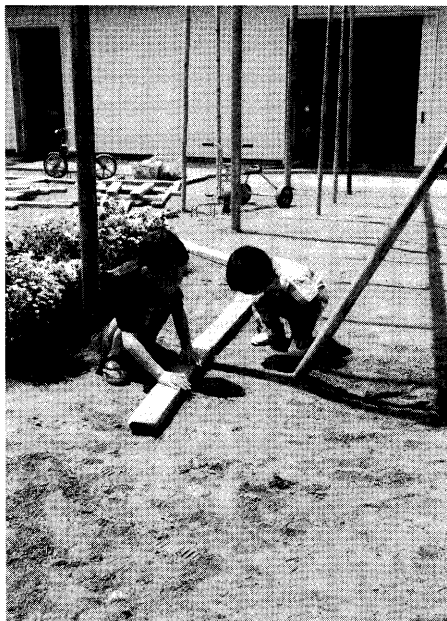


▶ 三本の直線で囲まれたために一つの場が出来上がった。年長クラスの女子たちは駐輪場をイメージして遊んでいる。



◀怪獣の牢屋にもなった。三人が怪獣ごっこをしている。

◀倉庫から、今は壊れたけれど、朝一番に作った家に板で結び、さらに延ばしていく。



◀三角形の平均台とつながった。喜び勇んで渡っていく。



写真・樋口早百合
解説・無藤 隆
協力・目白幼稚園